

2025年度 第4回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2026年 2月 26日（木）10時～
場 所 六会中学校 第一会議室

出席委員	滝内 洋子 （前学園都市むつあい協力者会議会長） 五十嵐 直美 （地域コーディネーター 六会地区青少年育成協力会副会長） 堀田 英二 （前六会地区自治連合会会長、六会中学校学習支援員） 尾方 典子 （六会地区民生委員児童委員協議会副会長） 山本 裕章 （六会地区青少年育成協力会会長） 人見 甲子郎 （フリースクール（森の仔じゅうがっこう）事務局長） 石川 智美 （六会中学校リーダーズ） 加瀬 晶 （六会中学校校長）
次第	1.開会 滝内会長 加瀬校長 挨拶 2.議題 「学校評価について」 3.各委員から 4.閉会
協議内容	（意見等） （加瀬副会長） ○学校評価について （加瀬副会長）4月に着任して子供たちと接している中で、子供たちはとても素直で中学生らしく、本当に純朴な子供たちが多い。登校指導していてもとても挨拶をよくしてくれ、部活動を見ていても一生懸命取り組んでいる。また何よりも行事を楽しんでいる。「学校は卒業後の進路について情報を知らせてくれている」は、生徒の意識として肯定的に捉えている割合が低い項目ということで、もう少し上がってもいいかと考える。生徒が主体的に考えているかという点も大切で、色々と種をまいて、職業進路、職業に向けてのいろんなチャンスを作っていくことは課題があると思っている。保護者へは、周知の仕方、関わり方を考えていかななくてはならない。「地震等が起きた時にどのように知らせたらいいか」については、今年度3回模擬訓練も含めて訓練を行い課題が見えてきた。実際に交通手段が止まり保護者の方が来てくださらない中で、その時子供たちをどう止めおい

て、どのように引き渡すのかというのはもう少し具体的な方向性出さなくてはと感じた。先ほどお伝えした学校は卒業後の進路について情報を知らせてくれているという件は、3年生に向けては子供たちにも進路学習ということで、保護者に向けては来校していただき具体的な情報提供をしている。1, 2年生の保護者に関しては3年生のその説明会の時に別教室でリモートで映像を見て聞くという機会は作っている。ただそういう機会を作っているかということと多くなく、情報提供という意味でまだ足りていない。学校のホームページその他、お便り、正門前の掲示板等有効活用していくなど工夫したい。学校は子供の悩みや問題に対して適切に対応しているというところについて、色々ご意見いただいたところではあるが、究極のところ職員の時間のなさはある。先生達は、昼休みは職員室に戻らず、走りまわり、あるいは放課後は会議や部活動でやらなくてはならないことがいっぱいある。何気ない時間の確保が難しくなっているなという気がする。また子供たちも自分たちの気持ちや感情を出すのが苦手で抱え込んでしまっているように感じる。人との関わり方これは職員に向けても友達同士に向けても発信していかななくてはならない。

全体的には本当に回答率が上がった。行事に保護者の方に来ていただき私自身もよくお話をさせていただいたが、いかんせんこれだけ大きい学校のためまだまだお話しきれない方々もいる。職員とも十分に話す時間がないというのがこのところ。これからも行事を今まで以上に充実しつつも確実に生かしていかななくてはいけない。地域の中にある学校ということで地域との関わりも大事にしないといけない分、開いていくとやはり誰かしらの負担になってしまうのでそこも十分生かしていかななくてはならない。

（滝内会長）登下校を見ていて、歩き方は上手になったかなと感じている。広がって歩くのは危ないが、コミュニケーションの場でもある。校長先生の便りで部活の活躍や学校の様子を知るのもうれしい。

（堀田委員）私も放課後学習会が終わって、下校中の生徒たちがまとまって帰るのを見て安心している。アンケートでプラス評価が増えたのは学校の努力の結果。進路の情報提供については、学校は情報提供しているけれども昨年度と同じ声が上がっており、1年生時から関心を持ってもらう工夫があると評価も上がるのではないと思う。

（尾方委員）回収率の高さに驚いた。子供たちのコミュニケーション能力の低下は気になる。親しい友達とは話せても、そうでない人とは言葉が出ない。でも地区のボランティアがあった際、こちらから挨拶を続けたら中学生も返してくれるようになった。大人が諦めないことが大切。また、QRコードの活用は良い発想だと思う。

（山本委員）評価結果は小学校と中学校では進路の重みが違う。1年から塾に行っている家庭とそうでない家庭で情報量の差が激しい。塾に行かないと学校頼みになるが、それはリスクも伴うかもしれない。早めに情報を仕入れないと3年で保護者ともども焦ってしまうことになる。部活動は、ここ最近全国レベル。一方

で部活を辞めた子たちも、その中での人間関係を学びとして経験している。掲示板やホームページは常に更新しないと人気がなくなる。外部の得意な人に任せるのも手。先生方の悩みを聞くカウンセラーはいないのか。先生も気持ちの面で大変なこともあるかと思う。

（加瀬副会長）産業医の相談日はあるが、真面目な先生ほど予約してまで行くのは難しいのが現状。

（人見委員）学校便りの校長先生の文章からは、学校の雰囲気を知ることができる。進路情報は、スマホ普及率を考えれば「すぐーる」を活用して専用ページやリンク集を作るといい。また、学校評価では教師の自己評価が控えめで低い事が多く、それは責任感の表れだが、もっと肯定的な意見を糧にしてほしい。1年に1回くらい、教師・保護者・生徒が直接議論する喋り場のような場があると、先生達が自身の日頃の取組みについて納得感が高まるはず。

（五十嵐委員）カバンが重くてよろよろしている子や、キャリーバッグが危ない場面を見かける。しかし重い荷物を持ちながら友達と楽しそうにしているのは、今の彼らにとって貴重な放課後の時間。

（堀田委員）教科書を全部持ってくる必要はないのでは。小学校のように置き弁用のボックスがあれば負担は減る。

（加瀬副会長）置き弁は禁止していないが、1年生は心配で全部持って帰ってしまうようだ。高校生になれば選択できるようになるのだが。

（石川委員）先生の余裕のなさ、子供の相談しにくさに直結する。保護者が子供の言うことだけを信じて学校に苦情を言う「負の連鎖」も気になる。地域の人を巻き込んで「みんなで見守っている」空気を作りたい。進路情報は「見出し」が重要。

（教育総務課）昨年度より肯定的な回答が増えているのは職員の努力の成果である。QRコードの活用も素晴らしい。

（人見委員）本来、学校は保護者を教育する場ではないが、親になるための講座のようなものはあってもよい。保護者同士が愚痴をこぼし合える親の部活のような場を保護者の中で作れば、学校への直接的な不満等は減るはずである。

（五十嵐委員）幼稚園でも保護者のSOSがいっぱいでているようだ。

閉会